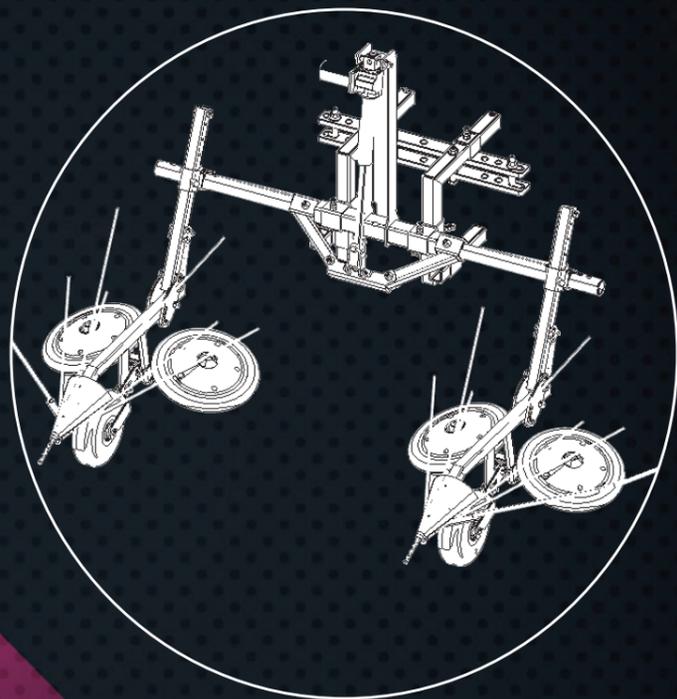


豆シャトル Bean divider



Q-HOE
Co.,Ltd.

使用しない場合

使用しない場合は、本体ステー部のみを外すか、取付部のみ残す、または全部はずしたりと状況に応じて設定が可能です。



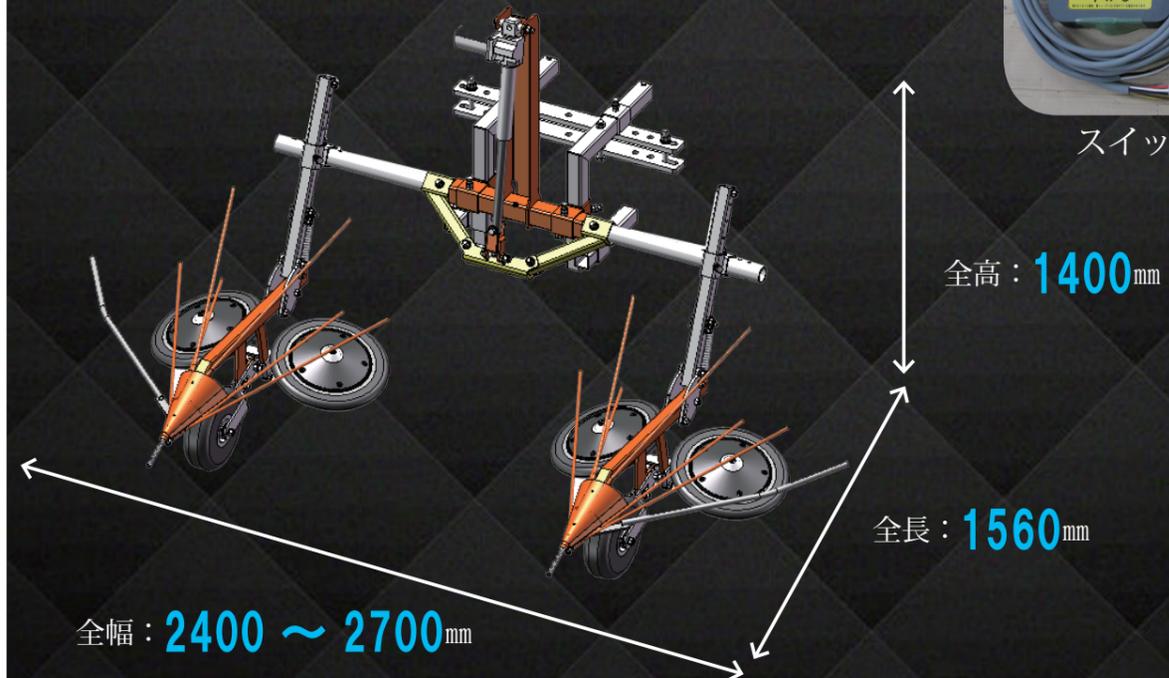
本体ステー部のみ外す場合



ウェイト取付部のみを残す場合

商品名：豆シャトル
重量：113kg【型式：H041-1B】
※北海道限定商品
標準装備：豆シャトル取付金具
豆シャトル本体
電動ホイス
スイッチボックス
配線一式

豆シャトル寸法



スイッチボックス

Q-HOE
Co.,Ltd.

あなたの「あったらいいな」を“カタチ”にします。

本社 北海道足寄郡足寄町旭町5丁目71-1

TEL(0156)25-5806 FAX(0156)25-6121

キュウホー

検索

商品は改良の為、予告なく変更する場合があります。



[豆シャトルヒストリー]

|| 2007 年

最初は玉ねぎ専用の防除通路用「手押し式玉助」から始まりました。

|| 2009 年

「玉助」を改良し、トラクター専用として「豆シャトル」を市販化。

|| 2014 年

2代目「豆シャトル」にモデルチェンジ。

|| 2017 年

3代目「豆シャトル」にモデルチェンジ。

|| 2019 年

北海道発明協会
会長賞 受賞。

分けるを変える。

いままで、トラクターの葉分けは地域により独自に進化していました。キュウホーでは初めて「葉分け」を市販化致しました。現在は様々な地域で活用されています。

「豆シャトル」は防除と同時作業を可能にするための機能を豊富に盛り込みました。また、取付部分も様々なトラクターに装着出来るようアタッチも豊富に用意しています。





葉分けの常識を変える！

■分けかたは、やさしくも、強くも思いのまま

一番重要な部分は葉を分ける部分です。従来多くのオリジナル品は丸棒で強制的に分けていくのが主流でした。作物が大きくなると、抵抗が増すことで損傷や折れの原因に繋がっていました。「豆シャトル」は葉分け部分をタイヤにする事で、進行方向にタイヤが作物と一緒に回転する事でやさしく分ける事が出来ます。また作物によっては茎の強さが異なることから、タイヤの角度が2段階に調整出来ることでより強く分ける事も可能です。

■ウェイトがついていればOK

トラクターはメーカーや型式により形状が様々です。「豆シャトル」は取付をウェイト部分に金具を装着する事でトラクターを選ばず取付が可能です。すべてネジでの取付になりますので、溶接や穴あけ加工等の必要はありません。

■リミットスイッチ仕様

防除中は前方確認や後方確認または、防除機の調整などたくさんの工程や運転作業などが求められます。防除に集中出来るように「豆シャトル」は回転時に必要な上げ下げ工程のスイッチ操作を、ワンタッチで出来るよう電動ホイスにリミットスイッチを内蔵する事で、長押ししながらのスイッチ操作は不要になり、ワンタッチで上げ下げを自動で行えるようになっています。

■調整も自由に

作物により植付幅が異なることから「豆シャトル」は取付穴を60・66・69・72・75cmと北海道内の主要作物に対応した幅の調整が可能です。また、どんなトラクターでも出来るだけ使用出来るように調整箇所を各所に用意しました。肝心の葉分け部も調整箇所を用意し、使用者が自由に設定出来るように制作されています。

豆シャトルの機能を紹介

本体部

「豆シャトル」本体部に急激な力が加わったときに、電動ホイスに衝撃が伝わりにくいようにバネを内蔵し、ショックを吸収する仕組みを装備しています。

本体部

回転時に必要とする「豆シャトル」の上げ下げは電動ホイスで行います。スイッチはトラクターの手元に設置できます。

本体ステー部

「豆シャトル」は使用作物の幅に合わせてスライドが可能になっています。60・66・69・72・75cm（取付位置で変更）

本体ステー部

トラクターの高さは馬力帯により地上高が異なります。そのため葉分け本体部は高さが調整出来るようになっています。

本体ステー部

圃場が凸凹でトラクター本体が上下しても、「豆シャトル」はバネの作用により独立した動きが出来るような仕組みになっています。

取り付け部

「豆シャトル」の取付は、トラクタ全面のフロントウェイト部分を利用して取付を行います。取付に関してはウェイトが装備されていればネジ留めで装着が可能になります。

葉分部

葉分け時に作物が巻き込まないように、タイヤにはカバーを取付しています。

葉分け部

タイヤの角度を2段階に設定出来ます。やさしく分けたい場合と、強く分けたい場合はタイヤの角度で調整が可能です。作物のクセにあわせた設定が可能になります。

取付方法・取付例

取付はウエイトを使用します。
ウエイトの枚数が少ないと取付は出来ませんが、「豆シャトル」本体の固定が安定し
ませんので出来るだけ枚数は多めに取付を行なって下さい。



ウエイトに取り付け後、葉分け部分の取付を行います。



ギャラリー

